

2学年2組 国語科学習指導案

指導者 杉山 明美 (T 1)
小林 垣紀 (T 2)

本時のテーマ	友達と意見を交流しながら、説明文を「筆者の論理を吟味する」という視点で読む学習
--------	---

1 単元名 論理をとらえよう 「考えるイルカ」

2 学習目標

観点	目標
関心・意欲・態度	・学習材の内容に興味を示し、見通しをもって取り組もうとする。
書くこと	・自分の考えの根拠を明確にし、論理の展開を工夫して意見文を書くことができる。
読むこと	・文章の論理の展開の仕方や内容を的確にとらえ、筆者の論理を吟味することができる。
言語事項	・論理に関する用語を理解することができる。

3 題材について

本学習材「考えるイルカ」は、イルカの思考方法を調べるためにいくつかの訓練や実験を行い、その結果について筆者の考察や判断を述べた文章である。その「論理の展開の仕方をとらえて吟味する」ことが目標である。

本学級の生徒34名に次のようなアンケートを実施した。

アンケート結果 (男子16名 女子18名 計34名 9月15日実施)

Q1 あなたは、物語や説明文を読むときに、筆者や登場人物の考え方や文章構成・述べ方などについて自分の考えをもちろん読んだりしますか。

・する 10人 ・しない 24人

Q2 授業で反論文を書いてみてどのように感じましたか。

・書きやすかった 1人 ・どちらともいえない19人 ・難しかった14人

以上の結果から本学級では、物語や説明文を読むときに、筆者や登場人物の考え方、構成・述べ方を吟味しながら読んでいる生徒が少ないことがわかる。また、反論文を書く学習では、反論することそのものに抵抗を感じたり、反論文を書いた経験がないので難しかったという生徒が多くいた。

そこで、この単元では、筆者の考察や結論の妥当性、さらに学習材の文章構成について検討しながら読むことに力を入れたい。そのため、まず、「考えるイルカ」の文章構成と段落の役割を図に表して読み取らせ、構成やキーワードを視覚的にわかりやすくしたうえで論理の展開の仕方を検討させたい。さらに、実験の結果(事実)と筆者の考え(主張)を抜き出し、論理的に結びついているかどうかを吟味させたい。「吟味する」という読み方には不慣れである点を考慮し、前の単元「意見を書こう」で学習した反論の文章の書き方を生かして、自分の考えを意見文として表現させたい。それらの学習をもとに、「考えるイルカ」をよりわかりやすい説明文にするために修正するという課題に取り組ませ、論理的思考力を育てたい。

4 指導と評価の計画 (7時間扱い) ○は本時

第1次 学習の見通しをもち、新出漢字や論理に関する用語を理解する。 ----- 1時間

第2次 全体の構成をつかみ、「訓練」の内容を理解する。 ----- 1時間

第3次 「実験」の手順・結果(事実)・考察を整理しながら読む ----- 1時間

第4次 筆者の考え(主張)について論理を吟味しながら読む。 ----- 3時間

時	学習内容	評価観点				評価規準(評価方法)
		関	書	読	言	
1 ・ 2	文章構成や事実と主張の結びつきを検討し意見文を書く。	◎	○			自分の考えの根拠を明確にしながら意見文を書くことができる。 (作品)
③	「考えるイルカ」をよりわかりやすい説明文にするために修正する。	○		◎		意見文をもとに、文章構成や筆者の主張に自分の考えを反映させて、本文を修正することができる。 (観察、発表)

第5次 さらに詳しく知りたいことを調べる。 ----- 1時間

5 本時の指導

(1) 目標

「考えるイルカ」をよりわかりやすい説明文にするために、修正することができる。

(2) 準備・資料

- ①ワークシート ②黒板掲示用資料 ③著書「イルカが知りたい」 村山 司
- ④ヒントカード

(3) 展開

学習内容・活動	資料	支援と評価(◎は個に応じた手だて)	
		T 1	T 2
1 本時の学習課題を知る。〈一斉〉 わたしならこう書く！「考えるイルカ」	②	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を反映させよりわかりやすい説明文にするために修正するように呼びかけ、意欲付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落に分け、内容を要約した資料を黒板掲示し、同様のワークシートを生徒に配付して作業しやすくする。
2 前時の意見文をもとに「考えるイルカ」を修正する。 〈ペア〉 (1) 文章構成・述べ方を修正する。 (2) 事実(実験結果)に対する筆者の主張を修正する。	① ②	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の意見文をもとに自力解決が可能なペアを意図的に組み、主体的な活動を促したい。 ・個別に支援しながら、それぞれの修正案を補助簿にメモし、修正案の発表に生かせるようする。 ・事実と主張の結びつきをとらえやすい視覚に訴える板書資料を提示し、論理的思考を促したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修正のポイント(文章構成・述べ方、筆者の主張を修正する)をおさえ、学習活動が、スムーズに進むようする。 <p>◎課題解決に不安があるペアを中心に、説明文の基本的な文章構成をもとにして考えられるように支援する。</p> <p>◎板書資料と同様のヒントカードを用いて、全員が課題に取り組めるように支援する。</p>
3 修正案を発表し、検討する。 〈一斉〉 (1) 文章構成・述べ方の修正 (2) 筆者の主張を修正	②		<p>評) 前時の意見文をもとに、文章構成や筆者の主張に自分の考えを反映させて、本文を修正しているか。 (読む；観察、ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の修正案を、自分たちの修正案と比較・検討し、視点を変えて筆者の論理を再度吟味させたい。 ・全文を黒板掲示用に拡大した資料、小黒板、模造紙などを使ってわかりやすい発表ができるように支援する。
4 本時の学習を振り返り、自己評価する。 〈一斉〉	①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の観点をワークシートに示し、本時の課題が達成できたか振り返りができるようする。 	
5 次時の学習を確認する。 〈一斉〉	③		<ul style="list-style-type: none"> ・「考えるイルカ」は、「イルカが知りたい」が出典であることを知らせ、イルカに関する図書への読書意欲を喚起したい。

